



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

社会人基礎力について

読者の皆様は、右上の絵を見て、どう思われるだろうか。経済産業省は、平成18年に、有識者を集めた研究会の議論をもとに「社会人基礎力」という考え方を提案した。仕事や社会生活で活躍するためには、読み書きを含む基礎学力や、各分野の専門知識だけでなく、それらの学力・知識を、現実の職場や地域社会で活かすための実践能力が必要であり、それを社会人基礎力と呼ぼうということである。

私は、その報告がまとまった直後に担当の産業人材政策室長に着任し、大学をはじめとする教育関係者を訪問し、学校教育において、知識習得のみならず、社会人基礎力の育成も進めて欲しいと説いて回る役割を担った。

当時は、企業の終身雇用制度が崩れ、非正規雇用が大幅に増えており、企業は学生の採用に「即戦力」を求め、学生はどのような力をつければ良いのかが分からず、そのミスマッチから、いわゆるフリーターが急増した時期に当たる。

当初、受け入れられるか不安を持ちつつ、飛び込みで「営業」活動を行ったが、意外にも、学校関係者の受けは良く、「こうした能力が大事なことは分かっていたが、それを生徒や親に伝える言葉がこれまでなかった」と感謝された。



社会人基礎力の養成を目標に掲げる学校も増え、文科省も「生きる力」「人間力」といった言葉で同様の考え方の普及を進めるようになった。この政策は、世の意識改革に一端の役割を果たしたと自負している。

最近「社会人基礎力」の重要性を再認識する機会が増えている。淡路島に戻ってから、知人にこのテーマでの講演を頼まれたり、訪問した会社の机に懐かしい社会人基礎力の絵が置いてあったりしたのも嬉しかった。しかし、最もこの言葉の大切さを意識するのは、「仕事ができる」ことの本来の意味が忘れられていると感じる時である。例えば、「専門知識を知っている」「自分の業務だけはきっちりやっている（逆に言うと、突発的な仕事は受けない）」「部下が動いてくれないが、自分がカバーしている」から仕事の能力がある筈というような考え方にアウトプットすることがある。

仕事とは、自らの行動を通じて、その仕事に関わる人（組織内の人のみならず、相手方も含め）を動かして初めて意味を持つ。行動を欠く知識の披露、チームプレーの意識のない一人よがりの業務執行は、望む結果につながらない。私自身も、考え抜いて行動し、響きあうことを常に心がけて仕事に当たっていきたくと考えている。そう、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」である。

オープンキャンパス 2017

「キャンパス見学会」と「オープンキャンパス」を開催します。受験生だけでなく、保護者やご家族の人たちもぜひキャンパスにお越しください。

キャンパス見学会 ※要申込み

- ◆日時 6月10日(土)、11月12日(日)、12月16日(土)の午後1時30分～4時
- ◆内容 学科説明、キャンパス見学、入試相談、AO面談ほか

オープンキャンパス ※事前申込み不要

- ◆日時 7月16日(日)、8月26日(土)、9月24日(日)の午前11時～午後4時
- ◆内容 学食体験、学科紹介、ミニ講義、キャンパスツアー、体験コーナー、入試相談、アパート相談、AO面談ほか

〒順正学園入試広報室 ☎ 0120-25-9944

第2回くにうみ祭 パフォーマーの募集 締切8月31日

11月11日(土)開催予定の学園祭「第2回くにうみ祭」では、体育館ステージでパフォーマンスをしていただける人を募集します。8月31日までに、次のメールアドレスまでご応募ください。

- ◆応募 kibi_kuniumisai@yahoo.co.jp
- ※メールには、団体名、代表者名、人数、パフォーマンス内容を必ず記入してください
- ※応募者には9月以降に連絡します



春叙勲 瑞宝単光章
澤内まぢ代さん(松帆)

澤内さんは、国勢調査の調査員を9回にわたり従事されたほか、工業統計調査員として34回従事されるなど、各調査の調査員として永年にわたりご尽力されました。各調査において調査客体へ正確かつ丁寧な説明をされたほか、継続的に調査員を務めることで調査客体との信頼関係も築かれ、正確な統計調査に多大なる貢献をされました。



春叙勲 瑞宝双光章
中田 光子さん(賀集)

中田さんは、昭和41年4月に兵庫県公立学校教員に採用され、38年間の永きにわたり小中学校や教育行政職員として尽力されました。特に校長として、心の通う学校経営に献身的な努力を注ぎ、地域の信頼を得たほか、地域の特性を生かした活力ある学校づくりをすすめました。教育実践の成果を発信するなど学校教育の充実にも多大なる貢献をされました。



春叙勲 瑞宝双光章
鳥井 盛男さん(神代)

鳥井さんは、昭和35年に旧三原町役場に奉職し、約35年間にわたり地方自治の発展に取り組みました。さらに平成6年9月から約10年間、旧三原町の助役に就任し、高邁な政治信念のもと、産業・観光・教育・文化の向上に献身的に尽力されました。特に、基幹産業である農業振興を図るため、ほ場整備や灌漑排水等の事業に多大なる貢献をされました。

平成29年度春叙勲

旧三原町助役の鳥井盛男さん、元兵庫県公立学校教員の中田光子さん、統計調査員の澤内まぢ代さんが平成29年度春叙勲の栄に浴されました。

春秋叙勲とは・・・国家または公共に対し功労のあった人を対象に毎年2回、春は4月29日、秋は11月3日付けで授与されます。

高齢者叙勲

旧西淡町議会議員の菅育郎さん、元兵庫県公立学校教員の児玉壽さんが高齢者叙勲をご受章されました。

高齢者叙勲とは・・・国家または公共に対し功労のあった人を対象に、米寿を迎えられた際に授与されます。



高齢者叙勲 瑞宝双光章
児玉 壽さん(広田)

児玉さんは、昭和25年3月に兵庫県公立学校教員に採用され、平成元年3月までの間、永きにわたり中学校教育を中心に尽力されました。昭和61年には旧緑町倭文中学校の校長に就任され、生徒の主体的な学習をすすめるとともに、小規模校の特性を生かし、生徒一人ひとりに具体的な目標とチャレンジ精神を持たせ、学力や体力の向上を図りました。



高齢者叙勲 旭日双光章
菅 育郎さん(阿那賀)

菅さんは、旧西淡町の議会議員として、昭和48年7月から平成13年7月の間、7期28年の永きにわたり在職。その間、議会議長をはじめ、産業建設常任委員長などを歴任し、旧西淡町の発展に多大なる貢献をされました。特に、阪神・淡路大震災後に就任した議会議長として、住民生活と地域産業への影響を一番に考え、被災者への支援策と早期復興へ尽力されました。